

「千葉県農林水産物輸出活性化取組方針」の概要について

取組方針策定の基本的な考え方

1 取組方針策定の趣旨

食の市場規模は国内では縮小する一方で、海外では拡大が見込まれていることや、台湾の輸入規制の緩和、EUの輸入規制の撤廃、成田市場の本格稼働等を踏まえ、輸出を活性化させるための取組方針を策定し、稼げる農林水産物を実現していきます。

2 本取組方針の位置づけ

本取組方針は、千葉県農林水産物振興計画（令和4年度～7年度）を上位計画とし、千葉県産農林水産物輸出活性化検討会議での意見や、県産農林水産物輸出活性化支援調査の結果を踏まえて策定します。

また、輸出環境の変化等に合わせ、随時検討を加えていくものとし、本取組方針を反映し、次期千葉県農林水産物振興計画（令和8年度～11年度）を策定します。

千葉県産農林水産物の輸出ポテンシャル等

1 輸出ポテンシャル品目／輸送手段

- (1) 日本からの輸出額上位品目
- (2) 県内の産出額（全国シェア/順位）
- (3) 輸出実現性（輸出を志向する生産者がいるか等）を掛け合わせて分析

【千葉県の輸出ポテンシャルのある品目】

	航空輸送	海上輸送
農産物	いちご、メロン、切花	さつまいも、なし、米、 植木、その他野菜
水産物	キンメダイ、アワビ、 その他鮮魚（冷蔵を想定）	サバ類、カツオ、マグロ、 イワシ類（冷凍を想定）
畜産物	—	鶏卵、（牛肉、豚肉（冷凍を想定））

2 輸出ターゲット国・地域

- (1) 各国・地域の日本からの輸出額（現状の日本産品マーケットの大きさ）
- (2) 日本からの輸出の伸び（日本産品マーケットの成熟度）
- (3) 外国からの輸入の伸び（海外産品マーケットの可能性）
- (4) 県内事業者の輸出実績や関心を掛け合わせて分析

【千葉県の輸出ターゲット国・地域】

全般	台湾、マレーシア、タイ、北米
水産物	台湾、マレーシア、タイ、北米、ベトナム、EU、中東
水産物以外	台湾、マレーシア、タイ、北米、香港

※上記以外に、大型量販店との連携を踏まえた特定のターゲット国・地域を定めることも有効

成田市場、成田空港を活用した輸出の現状と課題

- (1) 成田空港と羽田空港の便の優位性比較
北中米、台湾、フィリピン、ベトナム、インドネシア、UAE、モンゴルが成田優位
- (2) 成田空港と羽田空港の輸出実態比較
農林水産物の8割は成田空港から輸出されている。豊洲市場のキャパシティにも限界があり、成田市場の利便性が向上すれば、成田市場からの輸出拡大が見込める
- (3) 成田市場を活用した輸出の現状と課題
青果＝成田市場の利便性向上が鍵、水産＝輸出環境の整備が必要

新たな千葉県の輸出活性化取組方針

1 輸入規制に対する対応：ALPS 処理水放出等に伴う輸入規制に対する対応

- ◆ 国を通じて規制措置の即時撤廃を強く求め、機会を捉え、直接の要望活動を実施
- ◆ 国や関係機関と連携し、関係事業者に迅速かつ正確に情報提供を実施

2 生産段階の支援：輸出ポテンシャルを踏まえた輸出産地形成に向けた支援

- ◆ 衛生基準、農薬や園地登録などの輸出特有の基準に対応
- ◆ 競争力のある価格実現のための低コスト生産への転換
- ◆ 他県・他国と差別化し、付加価値がつく品種の選定とその品種への転換
- ◆ 輸出に適する県オリジナル品種等の開発の検討、海外での品種登録

3 流通段階の支援：最適な輸出物流構築に向けた取組支援

- ◆ 収穫時期、梱包方法等の検証及び普及
- ◆ 効率的な集荷ルート等の実証

4 販売段階の支援：輸出ステージ等を踏まえた戦略的販路拡大支援

- ◆ 輸出ステージを踏まえた継続的かつ戦略的な販路拡大が重要
- ◆ (1) 海外ニーズ調査、(2) 生産環境整備、(3) テスト輸送、(4) 輸出開始・運用改善、(5) 安定輸出・更なる販路開拓の各ステージに応じた販路拡大支援
- ◆ ターゲット国・地域を踏まえた戦略的なコンセプト及びパッケージデザイン等に留意

5 成田市場、成田空港を活用した輸出拡大

- ◆ 成田市場で輸出に取り組む事業者の商流構築支援
- ◆ 輸出拡大に伴い新たな必要性が生じている輸出環境整備
- ◆ 他市場等で輸出に取り組む事業者の成田市場活用に向けた施策の検討
- ◆ 成田市場、成田空港周辺などにおける輸出産地形成
- ◆ 訪日外国人等のニーズに合わせた農林水産物の販売と輸出への展開に向けた検討